

# リスク選好が乳がん検診の受診行動に及ぼす影響

佐々木 周作<sup>a</sup> 平井 啓<sup>b</sup> 大竹 文雄<sup>c</sup>

## 要約

本研究は、行動経済学におけるリスク選好が日本人女性の乳がん検診の受診行動に及ぼす影響を検証した。乳がん検診の主な対象である40歳台・50歳台の女性にアンケート調査を独自に実施して、自治体検診・主婦検診による乳がん検診の対象者と想定できる者602名を対象に分析を行った。推定結果から、仮想的質問において利得局面でリスク回避的に意思決定する人ほど乳がん検診を受診する確率が低く、また、損失局面でリスク愛好的に意思決定する人ほど受診する確率が低いことが分かった。さらに、利得局面でリスク回避的な人のなかには、乳がんになることを心配だと感じている人の割合が高いことが分かった。時間選好変数を用いたモデルの推定結果は相対的に不安定であった。

JEL 分類番号： I12, D80

キーワード： 乳がん検診, リスク回避, リスク愛好, プロスペクト理論

---

<sup>a</sup> 大阪大学大学院経済学研究科, 日本学術振興会 ssasaki.econ@gmail.com

<sup>b</sup> 大阪大学経営企画オフィス khirai@iai.osaka-u.ac.jp

<sup>c</sup> 大阪大学社会経済研究所 ohtake@iser.osaka-u.ac.jp

本研究は、大阪大学社会経済研究所倫理委員会の承諾を取得して行った。また、本予稿の作成にあたり、JSPS 科研費 JP14J04581 (佐々木)、国立がん研究センター開発費「予防・検診の普及啓発に関する事業的研究」事業および平成 26 年度及び平成 27 年度大阪大学社会経済研究所「行動経済学」共同利用・共同研究「がん医療における意思決定能力に関する行動経済学的研究」の助成を受けている。

本予稿は、最終的に英語論文として発表される論文を、準備段階のものとして日本語で執筆したものである。